

飛鳥資料館のみどころ (9)

展示品解説 その1

「石人像」

亀石など石造物のレプリカが展示してある庭を通りぬけ、飛鳥資料館の建物に入ると、まず出迎えてくれるのが、玄関ホールに展示してある石人像(重要文化財)です。

明治36年(1903)に、飛鳥寺(安居院)の北西の水田(現在の石神遺跡)から出土した、高さ約1.7mの石造物です。

等身大の老人男性が衣服を着て岩に腰掛け、その横に老人女性が男性の袖にそっと手を添えています。女性はスカートをはき、筒袖の上衣を着ています。特に、足のくるぶしなどの細部が細やかに表現されています。現在は欠損している男性のもつ盃と女性の口には、像の底からつながる直径約2cmの孔が開けられています。おそらくは噴水として用いられたのだらうと考えられています。

石人像が出土した石神遺跡は、その後の発掘調査によって、飛鳥時代の迎賓館と想定されています。噴水である石人像は、その迎賓館において遠来の客を迎えた、饗宴の場でのデコレーションだ

ったのでしょうか。その様子は、当資料館の庭に展示してある復原された石人像でみていただけたかと思います。

電動工具の無い飛鳥時代に、硬い花崗岩にどのようにして直径約2cmの孔を貫通させたのか、古代人の技術力の高さを肌で感じることができる逸品です。(飛鳥資料館 西山 和宏)



石人像

記 録

埋蔵文化財センター研修

保存科学課程専門研修

平成17年5月12日～5月26日 7名

文化財写真課程専門研修

平成17年6月1日～6月24日 6名

講演会(NPO平城宮跡サポートネットワークと共催)

平成17年5月15日(日)午後3時30分～

於:平城宮跡資料館講堂

「高松塚古墳と平城京」

白石太一郎 教授(奈良大学)

公開講演会

平成17年5月21日(土)午後1時30分～

於:平城宮跡資料館講堂

「考古学すんわ - 発掘お国柄事情 - 」

田辺 征夫 所長

「東アジアの古代苑池」

加藤 真二 飛鳥資料館主任研究官

「上咋麻呂の悔」

馬場 基 平城宮跡発掘調査部研究員

春期特別展示

平成17年4月16日(土)～5月29日(日)

於:飛鳥資料館

「飛鳥の奥津城

- キトラ・カラト・マルコ・高松塚 - 」

お知らせ

飛鳥資料館夏期企画展

展示

平成17年8月2日(火)～8月31日(水)

「古墳を飾る - 音乗谷古墳の埴輪 - 」

特別講演会

平成17年8月6日(土)午後2時～

於:飛鳥資料館講堂

「何のために埴輪を並べたのか」

高橋克壽 平城宮跡発掘調査部主任研究官

発掘調査現場に説明板を設置

平城宮跡発掘調査部では、現在調査中の中央区朝堂院の発掘現場(第389次調査)に、調査の状況をわかりやすくまとめた説明板を設けました。

場所は現場フェンスの北東寄りです。

お立ち寄りの際は、ぜひともご覧ください。



発掘現場の説明板

編集 「奈文研ニュース」編集委員会

発行 奈良文化財研究所 <http://www.nabunken.jp>

Eメール jimu@nabunken.go.jp

発行年月 2005年6月